

# 「ウォーキングツーリズム 地域振興の促進」 概要

## “Walking Tourism: Promoting Regional Development”

### ✓ 目的・内容

- ウォーキングツーリズムの実践的な成功事例を紹介することにより、地域の発展におけるウォーキングツーリズムの役割を考察
- 2019年1月発行  
(日本語訳：2021年9月発行)

<https://unwto-ap.org/document/unwtopublications.jp/#jpb14>

### ✓ 定義

- 数時間から1週間程度の滞在であること
- 観光客に特別な技術や体力を必要としないこと
- 舗装されていない道路が中心であること

※ 本レポートにおいては、ハイキングやトレッキングもウォーキングツーリズムに含めている。



# 「ウォーキングツーリズム 地域振興の促進」 特徴

## “Walking Tourism: Promoting Regional Development”

- ウォーキングツーリズムは地域の魅力を体験する手段として非常に高い人気を得ている
1. ウォーキングツーリズムは、あらゆる地域に活用することが可能
  2. 地域独自の自然と文化を組み合わせることで、比較的少ない投資で開発することが可能
  3. 雇用の創出やビジネスの機会をもたらすため、地域振興にも寄与
  4. 地域ならではの「体験」への需要と、運動を伴う観光の人気が高まることで、地域と観光客の双方にとって観光振興と健康増進の相乗効果が生まれる。
  5. 観光客はウォーキングツーリズムによって現地の人々や自然、文化とより多く触れ合えるようになるため、ウォーキングの枠を超え、地域全体を紹介するためのチャンスとなる。



- 地域には、各地の観光発展のためにウォーキングツーリズムの価値を最大限活用していくことが期待される。
- 地域に最大限の恩恵をもたらすためには、地域の関係者の協力と支援が極めて重要

# 「ウォーキングツーリズム 地域振興の促進」 考慮事項

## “Walking Tourism: Promoting Regional Development”

地域はそれぞれの目的やターゲット層(散歩を楽しむレベルから本格的なハイカーレベルまで)に応じて、その可能性を検討していく必要があり、実際の開発段階では、以下の要素が重要となる。

1. ルートの特徴(魅力、安全性、難易度、アクセス)のPR
2. 必要な設備(標識、トイレ、ベンチ等)の整備
3. メンテナンスシステムの構築
4. 関係者との連携強化による経済的な機会の確保  
(宿泊施設、交通機関、小売店、文化事業、ガストロノミーツーリズムやワインツーリズムとの連携等)
5. マーケティングや商業化

さらに、以下の観点も留意が必要

- ・道路など公共財を利用するため、住民と観光客との間で軋轢が生じる可能性がある。
- ・ルートの維持管理には地域のボランティア等との協力も重要

# 「ウォーキングツーリズム 地域振興の促進」 事例

## “Walking Tourism: Promoting Regional Development”

本レポートにおいては、地域の発展に向けてウォーキングツーリズムが果たす役割、推薦事項および世界の優良事例を紹介しています。

※フルバージョン(有償)

リンク先 <https://www.e-unwto.org/doi/epdf/10.18111/9789284420346>

日本国内の事例としては以下を掲載しています。

※九州オルレ(トレッキングコース)、信越トレイル(長野県から新潟県)、  
ONSEN・ガストロノミーウォーキング(全国)、上山市温泉クアオルト(山形県)

### 九州オルレ

- 「オルレ」は韓国・済州島から始まったもので、もともとは済州島の方言で「通りから家に通じる狭い路地」という意味。
- 九州オルレは済州オルレの姉妹版として、主に韓国からの誘客を念頭において制定された。
- ルートの選定にあたっては、「未舗装で自然の小道」、「周囲に特徴的な景観や歴史的なストーリーがあること」等がポイントとなった。

### 上山市温泉クアオルト

- クアオルトとはドイツ語で「健康保養地・療養地」の意味。
- 上山市では疾病防止や健康増進を目的として、温泉を生かしたルートが制定された。
- ルートの選定にあたっては五感を刺激し、精神的なリフレッシュを促すという点がポイントとなり、ドイツ・ミュンヘン大学の認定を受けている。